

回線利用料金の多様化で常時接続へ 電話網の切り札「IP接続サービス」登場

インターネットを利用する場合、通常はプロバイダー接続事業者に支払う接続料金と、NTTなどに支払う回線利用料金が必要となる。これまで、プロバイダー接続料金は早くから月額固定料金の完全定額制のものが登場していたが、回線利用料金は利用時間に応じた料金を支払う従量料金制が基本だった。

深夜定額制のテレホーダイ

NTTでは、各種の割引サービスを導入することで、一部ではあるものの定額制のサービスを提供してきた。その最たるものが「テレホーダイ」で、23時から翌朝8時までの深夜・早朝時間帯において、あらかじめ登録しておいた2つの電話番号に対する通信・通話が完全定額になるというものだ。登録電話番号が市内限定のサービスは、料金は通常の電話回線で月額1800円、ISDN回線で月額2400円となっている。また、登録電話番号が隣接地域内の場合のサービスもあり、それぞれ3600円と4800円になっている。これらは、利用時間帯が深夜に限られるものの、れっきとした定額制サービスといえる。

しかしテレホーダイでは、深夜・早朝時間帯以外の利用は通常の従量料金で課金されるので、常に得になるとは限らない。NTTが提供している他の割引サービスを利用した方が、テレホーダイより安く上がることも十分考えられる。たとえば、市内通話の10円あたりの通話時間が延長される「タイムプラス」や、月々定額を払うことである一定額まで利用できる「i・アイプラン」を選んだほうが、総合的に安くなることもある。

インターネットを日々の生活において有効に使おうと思えば、24時間365日繋ぎっぱなし状態の「常時接続」が必要となってくる。使いたいときにすぐに使えるし、回線利用料を気にする必要もないか

らだ。完全定額制のサービスは、これまでもいくつか登場してきていて、それらはおもにCATVやxDSLを利用するものだった。もちろん、それらの中にも従量制で課金する会社もあるので、すべての会社が定額制を採用しているわけではない。CATVの完全固定料金制のものを見てみると、64kbpsの速度でほしい月額4000円から6000円程度というのが一般的な価格だ。この価格にはプロバイダーとしての接続料金と、回線提供者としての回線利用料の両方が含まれているので、安価に常時接続が得られることになる。

ISDN回線の定額制サービス

いろいろなものが定額制に移行するなかで、昨年11月1日にNTTもISDN回線の定額制サービスの採用に踏み切った。「IP接続サービス」というのがその名前で、東京と大阪の一部を対象地域とする試験サービスながら、月額8000円で使い放題になるというものだ。申し込みには、接続するプロバイダーの登録が必要であり、申し込み後に接続先の電話番号が与えられる。そしてこの電話番号へのデジタル通信が、完全定額となるわけだ。なお、IP接続サービスでは、プロバイダー側がこれに対応している必要がある。

今年の2月になって、月額料金の引き下げと、対象地域の拡大が発表になった。月額料金は4500円に値下げされ、東京23区と大阪府のほとんどの市が対象地域とされた（5月11日より実施）。月額料金が4500円になったことで、プロバイダー接続料金と合わせても、CATVなどと十分に戦える金額になったといえる。1年間期間限定の試験サービスとはいえ、今後の対象地域の拡大と、正式サービスへの移行を期待したい。5月11日より実施されたものには、他に収容局単位でプロバイダーに接続する、月額2900円の新メニ

ューもある。これはプロバイダーが、アクセスポイントをメッセージエリア単位で用意するのではなく、各収容局までサービスの提供を行うことで実現されるものだ。これなら、直接プロバイダーのネットワークに接続されるため、利用者にとってのメリットもある。なお当然ながら、プロバイダー側がこのサービスに対応していなければ、利用できない。

NTTのIP接続サービスは、24時間利用可能なテレホーダイといえる。ただ24時間利用可能とはいえ、接続には必ずダイヤルアップの動作が必要であり、本当の意味での常時接続とまではいえない。接続形態をいうと、あくまでもダイヤルアップ接続の一種ということになる。

インターネットの利用には、情報を得るだけでなく、情報を発信することも含まれている。ウェブサーバーなどを立ち上げて、広く世界に情報を提供することもできるわけだ。この場合IPアドレスとしては、固定（スタティック）IPアドレスが必要だ。固定IPアドレスでないと、外部からのアクセスが簡単にはできないことになる。IP接続サービスはあくまでもダイヤルアップ接続なので、通常それぞれのプロバイダーはダイナミックIPアドレスを割り当てる。そのため、ウェブサーバーなどを立ち上げるのは、きわめて難しいといえ、あくまでも情報を得るためのものと考えたほうがいい。なお、CATVなどの中には、グローバルIPアドレスを固定的に割り当てるものもある。

情報を得るだけとはいえ、1日24時間どれだけ使っても支払う料金が一定で安価だということが、インターネットの普及を進めることになるのは間違いのない。利用者が増加すればいろいろな場所で競争が始まり、各種料金もさらに安価になることも考えられる。今後も定額制のサービス料金には注目していくべきだ。

(井上尚司 フリーランス)



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp